

平成30年度
地域支援室活動報告



日本赤十字広島看護大学
ヒューマンケアリングセンター
地域支援室

目 次

I. 平成 30 年度地域支援室活動概要

1. 地域支援室活動方針
2. 構成員
3. 地域支援室活動計画
4. 地域支援室活動実績
5. 次年度への課題
6. 資料

表1 平成 30 年度ヒューマン・ケアリングセンター地域支援室活動計画

表2 平成 30 年度ヒューマン・ケアリングセンター地域支援室研修会等実績

II. ホームページにおける広報活動の紹介

1. 認定公開講座（第 1 回～第 4 回）
2. 看護職のためのチーム作り研修会
3. 中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会
4. 日本赤十字広島看護大学公開講座
5. 生涯学習フェスティバル
6. 阿品台いきいき健康づくり
7. 阿品地区救急法講習会
8. 夢あじなプロジェクト

I. 平成 30 年度地域支援室活動概要

1. 地域支援室活動方針

1) 活動目標：

本学の教育・実践・研究機能を学外に開き、社会と連携・協力しながら、地域の保健医療福祉に貢献する社会資源として活用できる生涯学習拠点として活動する。

- (1) 赤十字施設ならびに実習施設など地域の保健医療施設と連携・協力し、専門職を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
- (2) 廿日市市との包括協定を活かして、地域住民を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
- (3) 教育ネットワーク中国・社会福祉協議会など外部関係団体との連携を図り、地域住民のニーズにあった生涯学習の機会を提供する。
- (4) 地域支援室活動を効果的・効率的に学内外へ広報する。
- (5) 自治体と連携・協力し、地域住民の健康の保持増進に寄与するための健康学習と支援体制の仕組みを作る。
- (6) 地域支援活動の成果を評価する。

2. 構成員

ヒューマンケアリングセンター長：植田喜久子

委員長（地域支援室長）：矢野博史

副委員長：渡邊智恵

委員：Simon. G. Capper・古賀聖典・竹倉晶子・原田裕子・林信平・山本知世・
勝田真由美・山田俊康

事務局：教務学生課

3. 地域支援室活動計画

生涯学習の拠点としてヒューマンケアリングを地域社会に広め、また、地域社会と緊密に連携しながらそのニーズに答えていくという方向性を持って計画した。（表 1）

- ① 看護に関連した専門職対象の活動は、理念的な内容のみになることを避け、実際の業務に直結するような内容とする。
- ② 地域住民対象の活動は、地域社会で行われている住民対象のイベントに積極的に参加することで地域住民のニーズをくみ取り、それに答えていく内容とする。
- ③ 本学学生も将来、地域の中で重要な役割を担っていくことが求められており、学生時代にボランティアを通して積極的に社会と関わっていけるよう働きかけることも重要な内容とする。

4. 地域支援室活動実績（表 2）

1) 事業件数および参加延べ人数

地域支援室における活動実績として、研修会等の事業件数総計は 32 件（前年度比 6 件減）、参加延べ人数は 1,977 名（前年度比 35 名増）と、事業件数は減少したが、参加延べ人数に大きな変動はなかった。

昨年度より引き続き、「夢あじなプロジェクト」を地域支援事業に位置づけるなど、従来自主企画として取り扱ってきた事業を、可能な限り地域支援事業に位置付けるよう企画者への働きかけを行っている。

「サンチェリーいきいきフェスティバル」および「中国新聞文化センター連携講座」は本年度も開催されなかったことから、次年度以降の事業計画には加えないこととする。

2) 専門職対象の活動

①認定看護師教育課程公開講座

<事業評価>

地域に摂食嚥下障害看護の知識、関心を広める目的で計4回開催し、地域の専門職は延べ369人が参加した。アンケートでは講義内容が今後の参考になったとの回答が93%を占めた。自由記述では「講義は演習もあり、とても実践的ですぐに役立つ内容だった。よく観察することが大切だと改めて思った。」「看護師として、自分にできることはまだまだたくさんあるということがわかりました。アセスメントをすることの有用性、アセスメントできるだけの知識が必要だと学びました。」等の回答を得た。「次も公開講座に参加したい」が92%をしめ、今後もより専門職のニーズにあった公開講座としていきたい。

<今後の課題>

参加職種の80%が看護師を占め、より広い専門職種に専門知識を広める必要がある。チラシの送付先やHPのURLを掲載する等チラシを検討する。

②看護職のためのチーム作り研修会

<事業評価>

「学生や新人看護師の成長を促すための発問とは？」というテーマで、2人の講師を招聘し、看護職のためのチーム作り研修会として開催した。これから指導者になる人たちに関心のあるテーマであったこと、これまでの指導に課題を持つ人たちに受け入れられたことにより、参加者は104名であった。研修会後のアンケートでは、実際にリフレクションの本を書いている著者から、最新の情報も得られ参考になったという回答が多く得られた。また、教育学と看護学の立場からの講演であったことも視野を広げる機会となった。参加者にとって満足度の高い、実践につながる研修会になった。

<今後の課題>

今回のテーマの続編、実践編を望む意見があり、来年度以降の研修会につなげていく必要がある。

③中四国地区赤十字関連施設・看護継続教育研修会

<事業評価>

「災害時に強い病院について考えるー組織・人づくりー」というテーマで、2人の講師を招聘し、中四国地区看護関連施設・看護継続教育研修会として開催した（日本赤十字広島看護大学 ヒューマン・ケアリングセンター事業 中四国地区赤十字看護部長会共催）。本テーマは、昨年度の本研修後のアンケート結果より、継続して災害看護に関するテーマの希望が多かったことと、災害が頻発しており社会的ニーズがあると判断して企画したが、参加者は57人であった。参加者の約半数が中間管理者であり、池内氏からは建築工学の視点から病院被害の特徴や災害対策の工夫を、江津氏からは実際の災害を想定した訓練をすることが人材育成につながるということ

を学んだ。平成30年7月豪雨災害後であり、災害に対する備えの必要性を認識するとともに、自施設の取り組みについて助言を受けたいと活発な意見交換がされた。

<今後の課題>

引きつづき専門職者のニーズや社会情勢を読み取り、それらに適応合致する企画を検討していく必要がある。

3) 地域住民対象の活動

①夢あじなプロジェクト

<事業評価>

夢あじなプロジェクトは、廿日市市阿品台コミュニティとの協働プロジェクトであり、阿品台地区における健康増進や維持に着目し、様々な取り組みを行っている。

平成31年1月22日(火)に「夢あじなプロジェクト：ゲートキーパー養成講座」を開催し、地域の皆様や関係者、学生、廿日市市職員、教職員、市町村の方々30名が参加した。

<今後の課題>

今後も廿日市市阿品台のコミュニティと協働しながら、取り組んだ活動の報告や健康に関連した課題について共有する場を積極的に設け、セルフケアとソーシャルキャピタル醸成(信頼ある見守り)に取り組んでいきたい。

②公開講座

<事業評価>

「誰にでもできる介護のコツ」というテーマで講義と演習を行った。廿日市市、広島市から28人の参加があった。(事前申込:20名→16名、当日参加:12名 合計28名)40代3名、50代1名、60代12名、70代4名、80代2名、不明6名であった。講義と演習形式で2時間、広域看護学領域の村田教授と藤井講師とボランティア学生4名によって実施された。介護を実際に行っている又は、これから行う予定があるという参加者が多く、熱心に参加していた。終了後の反応も良く、無回答の3名を除いて、アンケートに答えた全員が内容がわかりやすかったと答えた。実践的な介護のコツを聞くことが出来てよかったという声が多く聞かれた。また、今後も継続してシリーズ化して行って欲しいとの声があった。

<今後の課題>

前年度は生涯学習フェスティバルの協賛事業として同時開催していたが、今年では会場の確保が出来なかったため、日時をずらして本学で行った。バスで来校する人が多いと考えていたが、実際には自家用車で来る参加者が多かった。会場案内に学生を立てていたが、入口がわかりづらいという声も1件あった。掲示や誘導係を再検討する余地がある。初対面同士であったが、グループでの演習を和やかな雰囲気で行うことが出来ていた。今後開催を希望する内容としては、認知症への対応や食事介助の方法、車椅子への移乗方法など、今回の2時間では収まりきれない内容をもっと聞きたいという要望があった。その他、自由に相談をする時間が欲しかったと書く人もいた。時間を延長して個人相談にも応じるかは今後の検討としたい。

③シティカレッジ

<事業評価>

教育ネットワーク中国主催のシティカレッジに講師を派遣し、「チャレンジ！健康寿命延伸！ーソーシャルキャピタルとメンタルヘルスー」をテーマに、①セルフケアとソーシャルキャピタルの醸成による健康度アップ！、②私の心づもりの作成、③老年期のこころと幸福感、④バランスのとれた認知で心の健康度アップ！の計4回の講座を開催した。参加者の年齢層は、40歳代から80歳代と幅が広がったが、これからの高齢化社会で生きていく中で、いかに健康寿命を延ばすかというテーマへの関心が高いことが伺われた。また、家族や町内会など人とのつながり方や人間関係の築き方に活かしていきたいという感想もあった。全体的に参加者の満足度も高く、参加者のニーズに合った内容だったと考える。

<今後の課題>

超高齢化社会という時代に向けて、今回のテーマである健康寿命の延伸や、認知症、介護といった内容の受講希望のご意見があった。今後も、参加者のニーズや意見をさらに取り入れながら、講座の内容や教授方法を検討していく必要がある。

④阿品地区救急法講習会

<事業評価>

7月1日に阿品地区コミュニティをすすめる会の防災訓練の一貫として、阿品地区コミュニティをすすめる会と大学が共催で実施した。住民同士が救命できるように、赤十字救急法講習会の内容をもとに、心肺蘇生法とAEDの実技講習を行った。幼児から推定70歳代の幅広い年齢層78名の参加者があり、住民の皆さんは積極的に、真剣に取り組まれていた。本講習会で復習ができたとの声も多く好評であった。

<今後の課題>

限られた時間内で実技を中心に、かつ、参加者の質問に対応できるように内容、時間配分を検討する。

⑤フジグランナタリー健康・介護情報フェア

<事業評価>

10月11日～10月14日に昨年フジ50周年企画として開催され、本学より教職員5名が参加し、健康相談を21名実施した。内容は健診の項目や整形外科、血糖値など多岐にわたり、それぞれについて丁寧に傾聴し、助言を行った。

10月13日の食事相談会は、認定看護師研修生5名が参加した。61名の一般参加者からの主な相談内容は、口腔乾燥、口腔ケア、嚥下障害と多様な内容であった。認定教育課程の教員と研修生と一緒に相談を行い、嚥下体操の方法、口腔ケア方法を助言し、いつまでも美味しく食べる工夫や方法について提案し好評であった。

<今後の課題>

会場のレイアウトや時間・曜日によって健康相談の数が増減していた。地域住民のニーズがあることは昨年同様であると考えられた。住民が参加しやすい方法を検討する。

⑥第 27 回廿日市市生涯学習フェスティバル

<事業評価>

「体組成計、血圧計を用いた測定」では筋肉量、血圧などの情報提供を含めた体のセルフチェックに必要な専門的知識を約 80 名に伝えることができた。また「赤ちゃん人形での子育て体験」では赤ちゃん人形のあやし方、オムツ交換など大人から子どもまで楽しみながら学ぶことができた。「AED の体験」では練習用の AED を使用しマネキンを用いて心肺蘇生法を学習することができた。さらに災害時の避難所で役立つ物品の紹介については、段ボールベッドを準備し実際に寝てもらおう等の体験してもらった。参加した学生 6 名も地域住民との交流を通して、健康について考えたり、災害時の避難所をイメージしてもらい関心の高い声を多く頂くことができた。

<今後の課題>

1 年生はまだ健康相談などのスキルを学んでいないため、地域住民からの相談は難しいと考える。よって、2 年生のボランティアを多めに募集したり、事前にオリエンテーション等を行い取り組み内容の擦り合わせを行う必要があった。

⑦あいプラザ祭り 食べるとお口の相談コーナー

<事業評価>

○相談件数 個別 18 件、試食コーナーはらくらく食パン、とろみ茶 144 件、ゼリー 26 件、口腔ケア及びクイズラリーの回答説明 188 件、相談 18 件でありのべ 376 件であった。食べる、飲む等体験を通して日常の困りごと相談を行った。

あいプラザ祭りは市民を対象に健康をテーマとするクイズラリーを期間中に実施している。今年はクイズラリーで本学の口腔ケアと歯ブラシの問題が採用され、クイズに答えながらの口腔ケア相談が多かった。また、試食を通して試食した参加者が自身の嚥下障害を知ることは大きな意義があった。らくらく食パンは、子供から高齢者まで美味しいと評価が良く、病院や施設で取り入れたいと相談があり購入方法や相談窓口を勧めた。

個別相談では、介護支援学校の教員からの相談があり、嚥下障害のある子供の修学旅行で学校が準備したい食事の内容の相談があった。日常の食事内容を聞き、市販品のユニバーサルデザインフード区分 3 で購入可能なものを紹介できた。平成 30 年度も摂食嚥下をテーマに多くの市民に関心をもっていただくことができた。

<今後の課題>

広島県内の認定看護師が同日にイベントがあり集まりにくい。企画に関わるマンパワーの確保が課題である。

⑧大学と社協がすすめる若い世代の担い手づくり ボランティア応援会議

<事業評価>

廿日市市社会福祉協議会主催の会議が隔月で行われている。参加団体は廿日市市協働推進課、山陽女子短期大学、日本赤十字広島看護大学、廿日市市社会福祉協議会である。各大学の学生を中心として立てた企画のもと、学生のボランティア参加を促進していけるように援助を行っている。本学からは主としてボランティア・サークルの学生が出席している。

会議においては、随時、ボランティア募集などの情報共有をはかることに加え、年 2 回、ボランティア講座を開催している。本年度も例年通り、体験型のボランティア

講座を7月と12月に企画したが、7月の講座は実施段階で西日本豪雨災害のため中止となった。12月の講座の際には、企画から運営まで学生主体で行い、社会福祉協議会の担当者、各大学の教員がそれをバックアップした。12月の講座の参加者は40名超であった。講座終了後の意見交換会、アンケート結果からすると参加者からは概ね好評であった。

<今後の課題>

学生が地域の希望に応じたボランティア活動をスムーズに実践できるように、廿日市市、社会福祉協議会、大学との間で密接に連携を取り、学内での広報活動をさらに進めるなど学生をバックアップしていく必要がある。

⑨認知症高齢者支援会議

<事業評価>

廿日市市社会福祉協議会主催の会議が隔月で行われている。参加団体は廿日市市（高齢介護課、健康推進課、地域包括支援センター）、廿日市市認知症の人と家族の会、廿日市市大野認知症の人と家族の会、認知症になっても安らぎのある廿日市市をつくる市民の会、廿日市高齢者支援センター、日本赤十字広島看護大学、廿日市市社会福祉協議会であり、はいかい SOS ネットワーク、はいかい高齢者家族支援サービス、認知症サポーター養成講座、認知症関連の講演会の企画実施など幅広く活動している。

本学で実施した認知症サポーター養成講座は1年生を主な対象として26名が参加した。認知症サポーター養成講座にはキャラバン・メイトの方を講師に派遣していただき、有意義な学習の機会を得ることができた。

<今後の課題>

看護大学の有する人的資源とこの会議の事業とのマッチングを進めていくことが昨年度の意引き続き課題である。学内で開催する認知症サポーター養成講座を受講した学生は、認知症カフェにおけるボランティア活動に参加するなど、一つの経験から積極性が生まれることが多い。認知症サポーター養成講座の参加者は前年度を下回っており、次年度はひとまずこの企画への学生参加を促していきたい。

⑩認知症サポーター養成講座

<事業評価>

認知症サポーター養成講座は、認知症を正しく理解し、だれもが安心して暮らせる街づくりのために、ボランティアの視点から支援できるようになるという目的で本学1年生を対象として開催した。学務ポータル、SNS等で参加を呼びかけたが、本年度の参加者は26名となり、昨年度の半数程度にとどまった。2、3年生はこの時間帯に講義があったため、参加できなかった。講座内容は、パワーポイントでの説明に加えて認知症サポーター養成講座用に作られたテキストも配布・活用され、また、キャラバン・メイトと本学教員が行う劇も盛り込まれており、学生達の評価も高かった。学生へのアンケートでは、「認知症の方に対する理解が深まった」、「今後、認知症の方々と積極的に関わっていきたい」などの感想があった。参加者全員に対し認知症サポーターの印であるオレンジリングが授与された。講座への参加によって、認知症への理解を深め、実際の地域での支援へと繋げてほしいという当初の目的は達成されたといえる。

<今後の課題>

今後もより多くの学生・院生・教職員が参加できる開催日時を調整し、複数の手段での周知方法によって参加を促していきたい。また、1年生を対象とすることは次年度も継続する予定であるが、講座中に行う劇に2～3年生に参加を呼び掛けるなどの試みを社会福祉協議会の担当者と調整中である。

4) 高大等連携

①中高生対象出前授業

<事業評価>

本年度は、広島県、山口県の中学校・高等学校のほか、小学校の計9校に本学の教員が出向き、看護の専門性を活かした授業を行った。看護大学における学修内容の一部をわかりやすく小中学生や高校生に伝え、日頃の授業では学ぶことのない内容や看護大学における授業の雰囲気を経験していただくことができた。また専門分化した学問分野の魅力だけではなく、少子高齢化や多発する災害といった現実的な課題のなかで発揮される看護の力について具体的に知っていただくこともできた。

<今後の課題>

現在は各看護学領域の輪番制で担当しているが、プログラム化したテーマを検討し、内容について本学ウェブサイトで公開するなど、広報のあり方について検討する必要がある。

5) 地域支援室における活動の周知

例年と同じく研修会等のチラシを作成して、専門職対象事業は医療機関や教育機関に配布し、地域住民対象事業は行政・市民センター・町内会などに配布し、各事業への参加を呼び掛けた。また、本学ホームページにも各事業の案内記事を掲載した。必要な場合は、報道各社にプレスリリースを発信し広報を依頼した。事業終了後は、活動実績を広く学内外に周知するために、ホームページに活動報告ブログを掲載し広報に努めた。

6) 学外組織との連携協力による教育研究の推進

シティカレッジ(教育ネットワーク中国主催)に4回のシリーズで公開講座を行い、看護系大学の教員の教育研究上の強みを活用したプログラムを作成し、広島市の中心部で開講した。母性助産グループは「健やかな学校生活を送るために」をテーマに地域の高校生を対象として性教育を行うとともに、廿日市市、大竹市の小中学校の学校長および養護教諭と「大学が取り組む思春期への性教育」を共催した。

7) 地域交流の積極的参加

阿品台いきいきプロジェクト後継事業において、前事業で培われた地域住民との連携が維持された。また、廿日市市で開催される廿日市市生涯学習フェスティバル、あいプラザ祭り、フジグランナタリー健康・介護情報フェアに出展し、地域住民の健康管理・保持増進について啓発活動を行った。廿日市市や廿日市市社会福祉協議会が中心となって行っている学生ボランティア養成事業や認知症高齢者支援事業にも参加し、地域の中で、本学の人的資源を活かした支援を行っていった。さらに、阿品地区の救急法講

習会への協力依頼を受け、本学教員が学部生ボランティアの参加協力を得て、地域住民の希望に添った講習会を実施し、地域住民との交流が促進された。

①阿品台いきいきプロジェクト後継事業

<事業評価>

本年度は、本学の教員が出向き、地域看護の専門性を活かした内容を行った。テーマは「避難所での健康管理のコツ」として、災害時に発症しやすい身体面、精神面の問題をわかりやすく阿品台地区や近隣に住む方々に伝え、普段学ぶことのない内容を知っていただくことができた。また参加型の内容も取り込み、参加者の14名全員が意見や疑問を言える様式なども使用した。少子高齢化や障がい、難病といった現実的な課題のなかで発揮される保健師や看護師の力について具体的に知っていただくこともできた。

<今後の課題>

今年度も阿品台市民センターと協働して開催することができた。しかし、参加者が例年と同じく14名程度となっており、阿品台市民センターだよりやホームページ以外の広報のあり方について検討する必要がある。

5. 全体的な事業評価および次年度への課題

<事業評価>

地域支援室においては、年間の活動目標と計画に従って事業を行っている。各活動実績の表中にもあるように概ね本年度の目標は達成できている。地域が少子高齢化する中で社会のニーズは変化しており、学外の組織との連携は重要である。そうしたなか、イベント開催や会議への参加を通じた廿日市市や社会福祉協議会との連携、阿品台いきいきプロジェクト後継授業を中心とした地域社会との連携など順調に進めていくことができた。

<今後の課題>

地域の方々は、大学が積極的に地域住民の活動に関わってくれることを望んでいる。地域支援室としては、地域の方々が、本学がこの地にできてよかったと思って頂けるよう、積極的に関わっていくと共に、大学で得られた知見を地域の方々と共有できるように連携の機会を増やしていく必要がある。その際には、地域にある個別のニーズと学内のリソースのマッチングをさらに進めていくことが重要となる。また、都市部とは違った小さな共同体の中で若い学生の果たす役割は大きい。本年度も「阿品台いきいき健康づくり」を学生ボランティアと共同で実施することができ、一定の成果を挙げることもできたが、こうした事業を継続・拡大することによって、学生が継続的に地域と関わっていけるような事業を作り上げていくことが課題であるといえる。

6. 資料（表1、2）

II. ホームページにおける広報活動の紹介

平成29年度地域支援室活動計画に基づいた研修会・講演会等をホームページに掲載した。記事は写真等の視覚的要素を取り入れたポスター形式としたことで、研修会の内容をわかりやすく紹介することができた。

平成30年度 ヒューマン・ケアリングセンター地域支援推進委員会 活動目標および計画

活動目的： 本学の教育・実践・研究機能を学外に開き、社会と連携・協力しながら、地域の保健医療福祉に貢献する社会資源として活用できる生涯学習拠点として活動する。

平成30年度
活動目標：

1. 赤十字施設ならびに実習施設など地域の保健医療施設と連携・協力し、専門職を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
2. 廿日市市との包括協定を活かして、地域住民を対象として、ニーズに合った生涯学習の機会を提供する。
3. 教育ネットワーク中国、社会福祉協議会など外部関係団体との連携を図り、地域住民のニーズにあった生涯学習の機会を提供する。
4. 地域支援室活動を効果的・効率的に学内外へ広報する。
5. 自治体と連携・協力し、地域住民の健康の保持増進に寄与するための健康学習と支援体制の仕組みを作る。
6. 地域支援活動の成果を評価する。

(構成員) 委員長： 副委員長： 委員：

区分	委員会	総括	専門職対象活動		地域住民対象活動	廿日市市社会福祉協議会との連携事業	教育ネットワーク中国との連携	事務局
			研修会・講習会	認定看護師公開講座	研修会・講習会			
担当者	教務学生課	委員長・副委員長	別紙		別紙	別紙	応用看護学	教務学生課
内容		委員会運営 ・委員会の運営方針、体制構築 ・活動目標・計画の作成・管理 ・予算管理 ・広報活動についての対策検討 ・平成29年度活動報告取りまとめ 対外的窓口 ・廿日市市認知症高齢者支援会議 ・大学と社協がすすめる若い世代の担い手づくり応援会議	研修会の企画・運営及び広報活動 ①看護職のための研修会(目標50名)2月頃 ②中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会(目標80名) テーマ：看護師の成長支援に関する研修(12月)	認定看護師教育課程公開講座の計画・実施・評価(目標300名、4回)	研修会・講習会の企画・運営及び広報活動 ①公開講座(基盤看護学講座(基礎、広域)担当、目標30名) ②廿日市市生涯学習フェスティバル ③阿品地区救急蘇生法講習会 ④いきいき健康づくり ⑤あいプラザまつり ⑥岩国子ども支援課 こども館ベビーマッサージ(全6回) ⑦介護の日PRイベント	①ボランティア活動に消極的な学生へのきっかけ作りや、ボランティアに興味のある学生への情報提供 本学にて開催：ボランティア講座 ②認知症サポーター養成講座	大学がもつ優れた研究・教育機能を市民生活に活かすことを目的に、社会人に学習機会を提供する。 関連機関 一般社団法人教育ネットワーク中国 広島市 公益財団法人広島市文化財団	・議事次第、議事録の作成、講演会等の受付・名簿作成、会場確保、広報活動(HP) ・記録類のファイリング ・HP更新など
4月	4/11 第1回地域支援推進委員会 今年度活動目標・計画決定	・運営方針、委員会体制の構築 ・活動目標・計画の決定 ・4/12 廿日市市認知症高齢者支援会議 ・4/16 大学と社協がすすめる応援会議	平成30年度研修講師依頼 ①平成30年度研修会のテーマ選定 ①平成30年度研修講師の依頼選定と依頼、日程調整 4月末同方会交付金申請 ②平成30年度研修会のテーマ選定 ②平成30年度研修講師の依頼選定と依頼、日程調整 ②施設への案内チラシ作成、マスコミ等への広報先検討 4月末同方会交付金申請	企画が承認され次第、施設への案内チラシ作成・発送、マスコミ等への広報	①公開講座の担当領域への依頼・企画調整 ①4月末同方会交付金申請 ⑥4/22 岩国市 こども館ベビーマッサージ	①講師派遣依頼・日程調整		
5月	5/9 第2回地域支援推進委員会	・5/7 大学と社協がすすめる応援会議	②施設への案内チラシ完成、マスコミ等への広報開始、5月末同方会交付金申請(×)		①公開講座の案内チラシ作成・完成、マスコミ等への広報先検討、5月末同方会交付金申請(×)	①チラシ作成・学生への広報 ②講師派遣依頼・日程調整		・同方会交付金申請
6月	6/13 第3回地域支援推進委員会	・6/14 廿日市市認知症高齢者支援会議	②案内チラシ送付、マスコミ等への広報、ボランティアの募集開始	6/29 第1回認定看護師公開講座	①公開講座の広報、ボランティアの募集開始	①ボランティア講座(1年生対象、日程未定、6月～8月頃) ②講師派遣依頼・日程調整		・廿日市市生涯学習課へ広報はつかいち原稿提出 ・第1回認定看護師公開講座準備 ・研修会ちらし外注印刷
7月	7/11 第4回地域支援推進委員会	・7/7 大学と社協がすすめる応援会議	②案内チラシ送付、マスコミ等への広報、ボランティアの確保	7/27 第2回認定看護師公開講座	①市の広報原稿送付・廿日市市教育部生涯学習課への広報依頼(×切：毎年7月中旬締め切り) ③7/1 阿品地区救急蘇生法講習会講師派遣	①シティカレッジ 10/2 第1回講座(真崎) 10/9 第2回講座(松原) 10/16 第3回講座(笹本) 10/23 第4回講座(笹本)		・第2・3・4回認定看護師公開講座準備 ・研修会ちらし発送
8月		・8/9 廿日市市認知症高齢者支援会議 ・8/6 大学と社協がすすめる応援会議		8/3 第3回認定看護師公開講座 8/29 第4回認定看護師公開講座	①ボランティアの確認			
9月	9/12 第5回地域支援推進委員会		①施設への案内チラシ作成、マスコミ等への広報先検討		①公開講座の広報、ボランティアの確保 ⑥9/1 岩国市 こども館ベビーマッサージ	②チラシ作成・学生への広報		・公開講座準備 ・中四国地区看護継続教育研修会準備
10月	10/10 第6回地域支援推進委員会 次年度の活動目標・計画・予算立案	・主催研修への参加 ・企画書の集約 ・10/11 廿日市市認知症高齢者支援会議 ・10/15 大学と社協がすすめる応援会議 ・本年度企画の中間評価			⑦介護の日PRイベント 10/11～10/14	②10/22 認知症サポーター養成講座		・廿日市市生涯学習フェスティバル準備
11月	11/13 第7回地域支援推進委員会	・次年度計画・予算立案		認定看護師公開講座の開催効果についての評価	①11/10 公開講座(基礎人間科学講座(一般教養、専門基礎)担当)の開催、アンケート集計、報告書・ブログの作成 ②11/4 廿日市市生涯学習フェスティバル+あいプラザまつり ⑥11/10 岩国市 こども館ベビーマッサージ	②認知症サポーター養成講座、アンケートの集計(廿日市市役所の担当者と連携)、ブログ・報告書の作成		・次年度の予算取りまとめ
12月	12/12 第8回地域支援推進委員会	・12/13 廿日市市認知症高齢者支援会議	②12/1 中四国地区看護継続教育研修会の開催 ②中四国地区看護継続教育研修会同方会への実施報告書提出(アンケート集計含)・ブログの作成					
1月	1/9 or 16 第9回地域支援推進委員会		①ボランティアの確保					
2月	2/13 第10回地域支援推進委員会 活動報告書・自己点検評価作成	・活動の振り返り ・次年度に向けて課題の整理 ・2/14 廿日市市認知症高齢者支援会議	①2/25 看護職のためのチーム作り研修会 ①アンケートの集計、報告書・ブログ作成		④2/25 いきいき健康づくり ⑥2/23 岩国市こども館ベビーマッサージ			・看護リーダーのための研修会準備 ・同方会への実績報告書作成
3月	3/13 第11回地域支援推進委員会 次年度企画の準備	・今年度の活動を総括し活動報告書作成 ・今年度分の自己点検・評価作成	・今年度の活動の総括 ・活動報告書作成		・今年度の活動の総括 ・活動報告書作成			・活動報告書取りまとめ ・次年度活動計画取りまとめ
備考	・年間活動計画と予算にもとづいて各事業を実施する。 ・基本的に、赤字決算にならないよう各自事業を実施する。 ・各事業の担当は、企画・役割分担・調整・予算収支管理などを行う。実施に際しては、そのための段取りを提案し、委員および他の教職員の協力を得る。 ・事業終了後は、基本的に1週間以内にホームページに実施報告のブログを掲載する(担当者記事作成→委員長確認→センター長確認→事務局次長決裁) ・事務局は教務学生課の職員1名が主に担当する。							

平成30年度 地域支援室企画研修会等の実績

総計2,142名
前年度比(1,942名)+200名
小計530名
前年度比(527名)+3名

1) 専門職対象(6件)

企画	担当	日程	場所	テーマ	講師	目標数	参加者
1 認定公開講座(第1回)	原田委員	平成30年6月29日(金) 10:00~16:00	本学204講義室	午前 口腔内の構造、構造と摂食嚥下障害 午後 口腔ケアの探求	午前 広島大学大学院 准教授 吉田光由 本学客員教授 遠田綾子	60名 +研修生30名	計69名 一般 57名 研修生 27名
2 認定公開講座(第2回)	原田委員	平成30年7月20日(金) 13:00~16:00	本学206講義室	神経・筋疾患による摂食嚥下障害	関西労災病院 神経内科部長 野崎園子	60名 +研修生30名	計66名 一般 35名 研修生 27名
3 認定公開講座(第3回)	原田委員	平成30年8月3日(金) 10:00~16:00	本学ソフィアホール	食べる幸せへの支援の重要性と展望	NPO法人口から食べる幸せを守る会 理事長 小山珠美	60名 +研修生30名	計158名 一般 100名 研修生 27名
4 認定公開講座(第4回)	原田委員	平成30年8月29日(水) 10:00~16:00	本学206講義室 実習室1	午前 精神疾患及びその治療による摂食嚥下障害 午後 薬剤の管理及び服薬方法と摂食嚥下障害看護	午前 更正会早津病院 部長 藤田 康孝 午後 更正会早津病院 看護部主任 中村 清子	60名 +研修生30名	計78名 一般 78名 研修生 27名
5 中国地区赤十字関連施設・看護継続教育研修会	渡邊副委員長、竹倉委員、山本委員	平成30年12月1日(土) 13:00~17:00	本学204講義室	災害に強い病院について考える一組織・人づくり	摂南大学 理工学部建築学科 教授 池内孝子 国立病院機構災害医療センター 災害担当副看護師長 江津繁	80名	57名
6 看護職のためのチーム作り研修会	渡邊副委員長、竹倉委員、山本委員	平成31年2月16日(土) 13:00~16:00	本学204講義室	学生や新人看護師の成長を促すための発問とは?	本学教授 矢野博史 日本赤十字看護大学 教授 田村由美	50名	104名

2) 地域住民等対象(26件)

小計1,102名
前年度比(975名)+127名

企画	担当	日程	場所	テーマ	講師	目標数	参加者
1 2018年度 第1回 シティカレッジ	応用看護学領域、事務局	平成30年10月2日(火) 17:30~19:00	合人社ひと・まちプラザ	「チャレンジ!健康寿命延伸!」 -ソーシャルキャピタルとメンタルヘルス- 第1回 セルフケアとソーシャルキャピタルの醸成による健康度アップ!	本学教授 眞崎直子	30名	43名
2 2018年度 第2回 シティカレッジ	応用看護学領域、事務局	平成30年10月9日(火) 17:30~19:00	合人社ひと・まちプラザ	「チャレンジ!健康寿命延伸!」 -ソーシャルキャピタルとメンタルヘルス- 第2回 私の心づもりの作成	本学准教授 松原みゆき	30名	40名
3 2018年度 第3回 シティカレッジ	応用看護学領域、事務局	平成30年10月16日(火) 17:30~19:00	合人社ひと・まちプラザ	「チャレンジ!健康寿命延伸!」 -ソーシャルキャピタルとメンタルヘルス- 第3回 老年期のこころと幸福感	本学教授 戸村道子	30名	40名
4 2018年度 第4回 シティカレッジ	応用看護学領域、事務局	平成30年10月23日(火) 17:30~19:00	合人社ひと・まちプラザ	「チャレンジ!健康寿命延伸!」 -ソーシャルキャピタルとメンタルヘルス- 第4回 バランスのとれた認知で心の健康度アップ!	本学教授 戸村道子	30名	38名
5 岩国市子ども支援課 こども館ベビーマッサージ	成育看護学 (母性看護学・助産学)	平成30年4月22日(日) 10:00~11:00	岩国市こども館	子育て中の親子対象ベビーマッサージ教室	本学講師 中村敦子	25名	29名
6 岩国市子ども支援課 こども館ベビーマッサージ	成育看護学 (母性看護学・助産学)	平成30年9月1日(土) 10:00~11:00	岩国市こども館	子育て中の親子対象ベビーマッサージ教室	本学講師 中村敦子	25名	23名
7 岩国市子ども支援課 こども館ベビーマッサージ	成育看護学 (母性看護学・助産学)	平成30年11月10日(土) 10:00~11:00	岩国市こども館	子育て中の親子対象ベビーマッサージ教室	本学講師 中村敦子	25名	24名
8 岩国市子ども支援課 こども館ベビーマッサージ	成育看護学 (母性看護学・助産学)	平成31年2月23日(土) 10:00~11:00	岩国市こども館	子育て中の親子対象ベビーマッサージ教室	本学講師 中村敦子	25名	24名
9 岩国市子ども支援課 こども館祖父母学級	成育看護学 (母性看護学・助産学)	平成30年6月17日(日) 10:00~11:00	岩国市こども館	こんにちは赤ちゃん教室	本学講師 中村敦子	10名	10名
10 夢あじなプロジェクト	古賀委員	平成30年10月2日(火) 10:00~12:00	サロン夢あじな	健康相談、血圧測定など	本学教授 眞崎直子 本学講師 古賀聖典 学生3名	15名	10名
11 夢あじなプロジェクト	古賀委員	平成30年11月13日(火) 10:00~12:00	サロン夢あじな	健康相談、血圧測定など	本学教授 眞崎直子 本学講師 古賀聖典 学生4名	15名	10名
12 夢あじなプロジェクト	古賀委員	平成30年11月20日(火) 10:00~12:00	サロン夢あじな	健康相談、血圧測定など	本学教授 眞崎直子 本学講師 古賀聖典 学生3名	15名	10名
13 夢あじなプロジェクト	古賀委員	平成30年11月22日(火) 10:00~12:00	サロン夢あじな	健康相談、血圧測定など	本学教授 眞崎直子 本学講師 古賀聖典 学生3名	15名	10名
14 夢あじなプロジェクト	古賀委員	平成30年11月29日(火) 10:00~12:00	サロン夢あじな	健康相談、血圧測定など	本学教授 眞崎直子 本学講師 古賀聖典 学生5名	15名	10名
15 夢あじなプロジェクト	古賀委員	平成30年12月6日(火) 10:00~12:00	サロン夢あじな	健康相談、血圧測定など	本学教授 眞崎直子 本学講師 古賀聖典 学生4名	15名	10名
16 夢あじなプロジェクト	古賀委員	平成30年12月11日(火) 10:00~12:00	サロン夢あじな	健康相談、血圧測定など	本学教授 眞崎直子 本学講師 古賀聖典 学生4名	15名	10名
17 夢あじなプロジェクト	古賀委員	平成30年12月20日(火) 10:00~12:00	サロン夢あじな	健康相談、血圧測定など	本学教授 眞崎直子 本学講師 古賀聖典 学生3名	15名	10名
18 夢あじなプロジェクト	応用看護学領域 (地域看護学) 古賀委員	平成31年1月22日(火) 14:00~16:00	本学講義室	ゲートキーパー養成講座	上智大学グループケア研究所 小高真美	-	30名
19 効果的な地域診断のための研修会	応用看護学領域 (地域看護学) 古賀委員	平成31年1月25日(金) 14:00~16:00	本学講義室	空間疫学:地域診断の効果的手法-担当地域の健康課題の可視化-	国立精神神経医療研究センター トランスジェンショナル・メディカルセンター 長 立森久照	-	35名
20 阿品台いきいき健康づくり	古賀委員	平成31年2月25日(月) 13:00~15:00	阿品台市民センター	避難所での健康管理のコツ	本学講師 古賀聖典	-	14名
21 阿品地区防災訓練 救急法講習会	古賀委員、竹倉委員、林委員	平成30年7月1日(日) 9:00~12:00	阿品市民センター	胸骨圧迫法、人工呼吸とAEDを用いた心臓蘇生(実技) 気道内異物除去の説明	本学講師 藤井知美(主任) 本学講師 竹倉翁子 本学講師 古賀聖典	80名	約80名
22 フジグランナタリー 健康・介護情報フェア	矢野委員長、古賀委員、林委員	平成30年10月11日(木) ~10月14日(日)	フジグランナタリー	健康相談、ストレスチェックほか	本学教員	-	82名
23 あいプラザまつり	原田委員	平成30年11月4日(日) 9:30~16:00	あいプラザ	食事に関する展示と相談	本学助教 原田 裕子	-	376名
24 第28回 廿日市市 生涯学習フェスティバル	古賀委員、林委員	平成30年11月4日(日) 10:00~15:00	廿日市市庁舎 及び周辺	災害時に活用できる日用品の紹介、AEDの体験、 体組成計や血圧計を用いた測定・健康相談	本学講師 古賀聖典ほか	-	80名
25 公開講座	渡邊副委員長、竹倉委員、林委員	平成30年11月10日(土) 13:30~15:00	本学看護実習室	「誰にでもできる介護のコツ」	本学教授 村田由美 本学講師 藤井知美	50名	28名
26 認知症サポーター 養成講座	矢野委員長	平成30年10月22日(月)	本学講義室	認知症サポーター養成講座	廿日市市のキャラバンメイト	-	26名
ポランティア講座	矢野委員長	未実施	-	-	-	-	-

4) 高大等連携 (9件)

小計510名
前年度比(440名)+70

	企画	担当	日程	場所	テーマ	講師	目標数	参加者
1	体験授業・模擬授業	応用看護学 (地域看護学)	平成30年5月23日	大竹高等学校	看護師になるためにどんな勉強しているの?—在宅看護論の授業を通して—	本学准教授 松原みゆき	—	12名
2	体験授業・模擬授業	基礎看護学 (広域看護学)	平成30年6月22日	野坂中学校	看護師の仕事とやりがい	本学講師 宗内桂	—	116名
3	体験授業・模擬授業	成育期看護学 (母性助産学・助産学) (小児看護学)	平成30年7月9日	加計中学校	妊娠～出産までと赤ちゃんの特徴について	本学教授 奥村ゆかり 講師 渡邊聡美 本学教授 山村美枝 助教 朝倉美奈子、助手 佐々木香与	—	22名
4	体験授業・模擬授業	応用看護学 (精神看護学)	平成30年8月27日	四季が丘中学校	中学生のための(吹き出して 磨こう)コミュニケーション力	本学教授 戸村道子	—	18名
5	体験授業・模擬授業	成育看護学 (母性看護学・助産学)	平成30年9月10日	府中南小学校	いのちのたんじょう	本学教授 奥村ゆかり 講師 渡邊聡美	—	18名
6	体験授業・模擬授業	成熟期看護学 (成人看護学)	平成30年10月3日	廿日市西高等学校	がんを知り、病いとともに生きる力を育む	本学教授 植田喜久子	—	201名
7	体験授業・模擬授業	基礎看護学 (基礎看護学)	平成30年10月17日	廿日市高等学校	看護職および看護大学での教育についての紹介	本学講師 平賀睦	—	20名
8	体験授業・模擬授業	応用看護学 (地域看護学)	平成30年12月19日	五日市高等学校	健康なまちづくりの取り組み—地域看護学—	本学教授 眞崎直子	—	57名
9	体験授業・模擬授業	基礎看護学 (広域看護学)	平成31年3月19日	下松高等学校	看護って何だろう?未来のナースを育む授業	本学講師 宗内桂	—	46名

5) 学外会議への参加

	企画	担当	日程	場所	参加団体
1	認知症高齢者支援会議	矢野委員長	平成30年4月12日他 計6回	あいプラザ	廿日市市、認知症の人と家族の会広島県支部廿日市地区、認知症の人と家族の会広島県支部廿日市大野地区、認知症になっても安らぎのある廿日市市をつくる市民の会、廿日市市老人クラブ連合会、五師士会、みやうち廿日市野村病院、廿日市市社会福祉協議会、日本赤十字広島看護大学
2	大学と社協がすすめる若い世代の担い手づくり 応援会議	矢野委員長	平成30年4月16日他 計6回	あいプラザ	廿日市市、廿日市市社会福祉協議会、山陽女子短期大学、日本赤十字広島看護大学

1. 認定公開講座 (第1回～第4回)

日本赤十字広島看護大学 認定看護師教育課程 公開講座報告

平成30年度 認定看護師教育課程は地域の皆様に、摂食嚥下障害看護の関心を広める目的で公開講座を実施しました。東京から熊本までのべ369名の多職種が参加されました。今後より地域の皆様のニーズに沿った公開講座としていきます。

第1回 平成30年6月29日(金)参加者:69名
午前:口腔の機能、構造と摂食嚥下障害
広島大学歯学部 准教授 吉田光吉先生
午後:口腔ケアの探求
日本赤十字広島看護大学 迫田綾子先生



口腔ケア演習場面
講義と演習で、口腔の機能と構造、口腔ケアに関する知識と技術を学ぶことができました。

第2回 平成30年7月20日(金)参加者:66名
神経・筋疾患による摂食嚥下障害
関西労災病院 神経内科部長 野崎園子先生
摂食嚥下障害を起す神経・筋疾患とその治療を学ぶことができました。



講義終了後の記念撮影
摂食嚥下障害を起す神経・筋疾患とその治療を学ぶことができました。

ご参加ありがとうございました。

第3回 平成30年8月3日(金)参加者:158名
食べる幸せへの支援の重要性と展望
NPO法人口から食べる幸せを守る会理事長 小山珠美先生



熱心に質問する研修生
講師の様々な実践例から、あきらめずに丁寧に看護する姿勢を学ぶことができました。

第4回 平成30年8月29日(水)参加者:76名
午前:精神疾患と治療による摂食嚥下障害
草津病院 部長 藤田康孝先生
午後:薬物の管理及び服薬方法と摂食嚥下障害看護
草津病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 中村清子先生



聴講する研修生
最新の治療と薬剤管理の看護を学ぶことができました。

アンケートの結果、99%の参加者の皆様より今後の参考となったと評価をいただきました。
＜参加者アンケートの感想(抜粋)＞
・講義は演習もあり、とても実践的ですぐに役立つ内容でした。
・看護師として、自分にできることはまだまだたくさんあるということが、わかりました。
・よく観察すること、アセスメントの有用性、アセスメントできるだけの知識が必要だと学びました。

2. 看護職のための チーム作り研修会

平成30年度看護職のためのチーム作り研修会を開催しました！

学生や新人看護師の成長を 促すための発問とは？

開催日時 平成31年2月16日(土) 13:00～16:00
開催場所 日本赤十字広島看護大学

【プログラム】

講演1 成長を促すための関わり ～教育学の立場から～
講師：矢野博史 日本赤十字広島看護大学 教授

講演2 リフレクションにおける効果的な発問
講師：田村由美 日本赤十字看護大学 教授

今年度は、「発問」をテーマに研修会を開催しました。中四国・九州地方から104名の方にご参加いただきました。矢野氏からは、教育学の立場から学生や新人看護師との関わりや関係性について、田村氏からは、リフレクションの方法やポイントについてご講演いただきました。



参加者からは、日頃の教育を振り返る機会になった、リフレクションを実践していきたいという多くの感想をいただきました。続編・実践編を期待する声もあり、今後の研修会の企画につなげていきたいと思っております。多くの方々にご参加いただき、心より感謝申し上げます。



主催 日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター 地域支援室

3. 中四国地区赤十字関連施設 看護継続教育研修会

平成30年度中四国地区赤十字関連施設看護継続教育研修会を開催しました！

災害に強い病院について考える —組織・人づくり—

開催日時 平成30年12月1日(土) 13:00～17:00
開催場所 日本赤十字広島看護大学

プログラム

講演1 災害に強い病院とは
—病院被害の特徴、推奨されている病院対策など—
講師：池内淳子 摂南大学 理工学部 建築学科 教授

講演2 災害医療センターの災害への備え
—BCP(事業継続計画)を踏まえた取り組みと人材育成—
講師：江津繁 独立行政法人 国立病院機構 災害医療センター 災害専門副看護師長



今年度も本学で、中四国地区赤十字関連施設・看護継続教育研修会を開催しました。

池内氏からは、建築工学の視点から病院被害の特徴や災害への対策についてお話いただきました。江津氏からは、災害を想定した訓練の実践、人材育成の考え方についてお話いただきました。参加者からは、建築の視点からの話を聞く機会が初めてあり参考になった、自施設のBCP作成や災害訓練に活かしたいなど、多くの感想をいただきました。

平成30年7月豪雨災害を受けて、災害への備えの必要性を認識され、多くの施設の方にご参加いただきました。心より感謝申し上げます。

日本赤十字広島看護大学 ヒューマンケアリングセンター事業 中四国地区赤十字看護部会長 共催 (本研修会は財団法人日本赤十字社看護部同方看護研修会等助成事業の助成を受け開催しました)

4. 日本赤十字広島看護大学 公開講座

平成30年度 公開講座 廿日市市教育委員会生涯学習課共催

テーマ：「誰にでもできる介護のコツ」

講師：日本赤十字広島看護大学 広域看護学
村田由香教授
藤井知美講師

日時：30年11月10日(土) 13時半～15時半

最初に介護についての基礎知識を講義形式で行いました。



皆さんとても真剣に聴講されています。

次に身体を使って演習を行いました。



和やかな雰囲気の中で介護する人もされる人も楽に移動する方法について演習をしています。

実施後アンケートでも満足度が高く、今後も開催して欲しいという声がありました。

5 . 生涯学習フェスティバル

廿日市市 第28回生涯学習フェスティバルに参加しました

平成30年11月5日(日)に日本赤十字広島看護大学の学部生6名と教員2名が参加し、赤ちゃん人形を使った子育て体験、一次救命処置とAEDの体験、体組成計や血圧計を用いた測定、健康相談、段ボールベッドを使った避難所の体験に取り組みました。



80名の方が体組成計で測定し測定値に興味深々でした。



血圧測定や健康相談にも学生が一生懸命取り組みました。

段ボールベッドを活用し避難所の体験をしました。



これからも地域の方々のお役に立てられる活動を続けていきたいと思っております。

6 . 阿品台いきいき健康づくり

2018年度 阿品台いきいき健康づくり ご報告



避難所に関連したクイズにも積極的に参加されました。

平成31年2月25日(火)に日本赤十字広島看護大学の教員1名が中心となり阿品台市民センターで開催した「阿品台いきいき健康づくり」に14名の方が参加されました。阿品台にお住まいの方だけでなく、廿日市市などの行政機関の方々にもご参加頂きました。**避難所での健康管理のコツ**や、**災害時を想定した避難所のレイアウトの例**を用いて、平時から取り組める方法などについて活発な意見交換なども行われました。

7. 阿品地区救急法講習会

阿品地区救急蘇生法講習会を開催しました

平成30年7月1日(日)に日本赤十字広島看護大学の学部生3名と教員3名が参加し、一次救命処置の手技とAEDの使用法について学ぶ機会に阿品地区の住民78名が参加されました。



復習ができて良かったとの感想を多く頂きました。



マネキンを使用し真剣に心肺蘇生法を実践しました。



これからも阿品の方々のお役に立てるよう活動を続けていきたいと思っております。

8. 夢あじなプロジェクト

9. 効果的な地域診断のための研修会

夢あじなプロジェクト

ゲートキーパー養成講座

平成31年1月22日(火) 14:00~16:00

サロン夢あじなと本学地域支援室自主企画事業「夢あじなプロジェクト」を阿品台コミュニティの方々、廿日市の民生委員さん、学生、廿日市市職員、教職員30名集まいただき、開催いたしました。

はじめに、上智大学の小高真美先生より自殺予防についての講義をいただき、地蔵に自殺をはめかす人へのロールプレイングのデモンストレーションを見学し、実際に二人一組でロールプレイングを行い、支援者役と受援者役を体験しました。参加者の皆さんからは「地域できになる人がいてもどう声かけや接したらいいかわからなかったが、具体的な方法を聞いてやってみようと思った。」「周囲の人にも広めていきたい」との声が聞かれました。サロン夢あじな代表の松井さんからもサロンに出て来られない人への支援を考えるヒントになりました。とのことでした。今後も大学、コミュニティ、行政、関係者が一体となり、自殺予防に取り組んで行けたらと思います。(担当: 地域看護学領域)



声かけのデモンストレーション



講師の小高先生による自殺予防のポイント



効果的な地域診断のための研修会

平成31年1月25日(金) 14:00~16:00

地域診断については、これまでの保健師活動のみならず、介護保険に基づく介護予防事業などでも使用されており、実践の方々にとって重要な地域問題把握および評価のためのツールとなっています。そこで、今回は、「空間疫学: 地域診断の効果的手法- 担当地域の健康課題の可視化-」をテーマに国立精神神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター 室長 立森久照先生にご講演をいただきました。講演後の質疑応答やグループワークで各自の課題を持ち寄り検討していただきました。参加者は保健師、看護師(訪問看護含む)、社会福祉士35名でした。参加者より、「地域診断をどのように進めるかの実践の方法が知りたい」と思い参加。今回、とても参考になりました。「地域診断の取り組み事例を聞いたので良かった。」などの声が聞かれました。今回の研修会を通して、多職種による地域診断の必要性を感じ、地域包括支援センターや訪問看護ステーションにおいても、地域診断の必要性を感じていることがわかりました。今後はそういった多機関連携の地域診断に取り組み、地域の健康課題を可視化し、行政はじめ関係者と共有していくことが求められていると思われます。(担当: 地域看護学領域)



講義後はグループでディスカッション



グループごとで発表後意見交換を実施

